

南るもい 水稻技術情報

留萌農業改良普及センター南留萌支所

TEL : (0164) 42-8493 FAX : (0164) 42-4079

HP : <http://www.rumoi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index2.htm>



～登熟期管理について（後半）～

◇現在までの気象・生育について◇

現在までの普及センター調査ほ(品種:ななつぼし)の生育状況は、6月の日照不足等により、水稻の茎数は例年よりも少ない傾向となっています。今後の収量・品質の確保に向けて、生育状況を確認し、登熟期後半の水管理に努めましょう◎

【登熟期後半の管理ポイント】～水分不足にご注意！～

<土壌水分>

- 登熟後半の土壌水分は、根の活力を保つため浅水管理または間断かんがいを行い、登熟に必要な土壌水分を確保しましょう。
- 水田土壌水分と土壌表面の状態は、土壌表面に小さな亀裂ができ、足を踏み入れたときにわずかに足跡が付く程度が目安です。
- 土壌表面が乾燥し過ぎると亀裂が入り、根が切れて水稻の吸水力が低下し、登熟不良や心白米・腹白粒・乳白粒の発生、千粒重の低下を助長するので、収穫の10日前頃までは、土壌表面1cm以上の亀裂を入れないようにしましょう。

<落水時期と落水後の水管理>

- 落水時期は、玄米形成がほぼ完了する出穂期後25日目の「穂かがみ期」以降に行えるよう努めましょう。
- 湿田や透排水不良田では、出穂期から出穂期7日目が落水の目安となりますが、土壌水分の状態に応じて、適宜走水を行いましょう。
- 登熟期間にかんがいを切り上げた後に、少雨で経過すると土壌が乾燥して収量・品質が低下する場合がありますので、登熟に必要な土壌水分を確保するため適正な水管理を行いましょう。

農作業事故防止に努めましょう◎